

## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社 上場取引所 東 福  
コード番号 9656 URL <https://www.greenland.co.jp/>  
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）松野隆徳  
問合せ先責任者 （役職名）取締役経営管理室長 （氏名）佐伯賢二 TEL 0968-66-2111  
半期報告書提出予定日 2024年8月13日 配当支払開始予定日 2024年9月2日  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

## （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	2,943	△0.9	258	△34.1	274	△31.6	193	△37.1
2023年12月期中間期	2,970	17.0	392	44.8	401	24.0	307	34.5

（注）包括利益 2024年12月期中間期 223百万円（△38.4％） 2023年12月期中間期 362百万円（62.8％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	18.71	—
2023年12月期中間期	29.76	—

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	18,811	9,936	52.8
2023年12月期	18,840	9,805	52.0

（参考）自己資本 2024年12月期中間期 9,936百万円 2023年12月期 9,805百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	5.00	—	9.00	14.00
2024年12月期	—	5.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	8.00	13.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,700	4.6	630	△29.1	620	△30.4	430	△7.3	41.60

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期中間期	10,346,683株	2023年12月期	10,346,683株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	9,260株	2023年12月期	9,260株
③ 期中平均株式数（中間期）	2024年12月期中間期	10,337,423株	2023年12月期中間期	10,337,423株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間 .....	7
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等の注記) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におきましては、インバウンドを含む人流の回復が順調に進む中、新たに「中期経営計画2026」を策定するとともに、積極的な集客施策に取り組んでまいりましたが、書き入れ時となるゴールデンウィークの利用者数が伸び悩むなど、各施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の5類指定に伴う行動制限の緩和や全国旅行支援事業の影響で好調であった前年同期と比べて減少いたしました。

一方、レジャー消費の回復傾向を背景として、施設ならびにサービスの拡充と合わせて各種料金改定を行ったほか、効率的な経費支出に取り組み、各事業における収益力の向上に努めました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は2,943,792千円(前年同期比0.9%減)となり、営業利益は258,798千円(前年同期比34.1%減)、経常利益は274,911千円(前年同期比31.6%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は193,431千円(前年同期比37.1%減)となりました。

項 目	当中間 連結会計期間 (千円)	前中間 連結会計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	2,943,792	2,970,701	△26,909	△0.9
営業利益	258,798	392,984	△134,185	△34.1
経常利益	274,911	401,816	△126,905	△31.6
親会社株主に帰属する中間純利益	193,431	307,678	△114,246	△37.1

報告セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

・遊園地セグメント

九州の『グリーンランド』におきましては、春のイベントとして、国内外で高い人気を誇るバーチャルシンガー「初音ミク」の生誕16周年を記念したフロアイベントを開催いたしました。

また、園内に新たに設置した臨場感溢れるライブステージを舞台に、「仮面ライダーガッチャード バトルステージ」を展開いたしました。

そのほか、3月には、2週連続で「HANABI フェスティバル」を開催したほか、ゴールデンウィークには、歴代の「プリキュア」たちが大集結する「プリキュアオールスターズがやってくる！」を開催するなど、休日を中心に様々な魅力あるイベントを展開いたしました。

施設面においては、3月に新規アトラクション「サブマリンシューティング」をオープンさせたほか、園内売店のリニューアルや各種景観向上に取り組み、遊園地全体におけるワクワク感の増大を図りました。

また、新たに、台湾をはじめとする東アジアに強い商圏を持つ旅行予約会社とも業務提携を行い、増加傾向にあるインバウンドの集客拡大に努めました。

この結果、利用者数は前年同期比51,950人減少の344,414人となり、売上高は前年同期比78,987千円減少の1,071,039千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、学校団体の利用は堅調だったものの、2月の天候に恵まれず、ゲレンデコンディションが悪化したことも影響して、利用者数は前年同期を下回りました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春の遊園地オープンより、多彩なキャラクターショーのほか、「竹下☆ばらだいす」のライブショーなど、話題性の高いイベントを開催して、ファミリー層を中心に集客を図りました。

『いわみざわ公園管理』におきましては、『バラ園』で「ローズフェスタ」を開催したほか、『色彩館』では、「洋らん展」や「つるバラピクニック」など各種イベントを開催して集客拡大を図りました。また、4月より新たに『利根別自然公園』などの指定管理者として指名を受けており、収益基盤の安定化を図っております。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前年同期比237人増加の77,685人となり、売上高は前年同期比13,507千円増加の271,910千円となりました。

以上の結果、利用者数は前年同期比51,713人減少の422,099人となり、売上高は前年同期比65,480千円減少の1,342,950千円となりました。

#### ・ゴルフセグメント

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、地域の各種競技大会に加え、趣向を凝らした多様なオープンコンペを開催するなど、パブリックゴルフ場の強みを活かして集客拡大を図りました。

また、自動精算機の拡充やレストランのセルフオーダーシステム導入によりプレーヤーの利便性向上を図ったほか、環境に配慮した自家消費型太陽光発電システムを導入し、光熱費の削減に努めました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、積極的な営業展開を行うなど、大型ゴルフコンペの利用回復に注力いたしました。また、キャディ付プレーの促進やきめ細やかなプレープランの造成による客単価増加に取り組んだほか、コース内の茶店の直営化による効率的な運営体制を整え、収益性向上を図りました。

そのほか、新たな送客エージェントと業務提携し、3つのゴルフ場を有するメリットをPRして、需要回復が見られる韓国からのゴルフプレーヤーの獲得を図りました。

以上の結果、利用者数は前年同期比3,838人減少の70,174人となり、売上高は前年同期比6,489千円減少の514,789千円となりました。

#### ・ホテルセグメント

『ホテルブランカ』におきましては、遊園地やゴルフ場に隣接するオフィシャルホテルとしての強みを活かし、利用目的に合わせた多様な特典付宿泊プランを前面に打ち出して集客を図りました。

また、料飲部門におきましては、特色ある鍋バイキングや遊園地を望む中庭バーベキューのほか、遊園地利用客をメインターゲットとして、充実したメニューを揃えたランチバイキングの展開により売上拡大を図りました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、宿泊部門では、OTA(オンライン・トラベル・エージェント)を活用して集客に努めるとともに、自社予約においては、宿泊特典を強化した高付加価値プラン販売による差別化を行い、一層の収益拡大を図りました。

料飲部門におきましては、和食レストラン「小岱」では、回復傾向にある慶事・法事の取り込みに注力したほか、季節の食材をふんだんに使った料理をPRして、地元客を中心に利用促進を図りました。洋食レストラン「フォンターナ」においては、好評なランチバイキングに加え、スイーツバイキングなど、ホテルならではの特別感のあるイベントを展開したほか、アレルギー食品表示の対応など、きめ細かいサービス提供により集客拡大を図りました。

宴会部門におきましては、人気の「カニ&ステーキ祭り」の開催をはじめ、地元企業の周年式典や各種祝賀パーティなど幅広い宴会プランのPRにより、売上拡大を図りました。

また、婚礼部門におきましては、SNSの活用による最新の情報発信を行い、お客様のニーズにマッチできる「ヴェルデ婚」を最大限に打ち出して利用獲得を図りました。

この結果、九州の『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前年同期比4,416人減少の26,646人となりましたが、売上高は前年同期比8,894千円増加の567,972千円となりました。

『ホテルサンプラザ』におきましては、駅に近い好立地を活かし、ニーズの高いビジネス客や各種団体客の利用促進を図ったほか、遊園地のオフィシャルホテルとして、お得な「フルエンジョイプラン」を造成し、ファミリー層や若者層を中心に集客を図りました。

また、「ホワイトパーク(スキー場)」や近隣ゴルフ場の利用との宿泊セットプランの造成により、好調なインバウンドの取り込みにも注力いたしました。

料飲部門におきましては、好評なランチバイキングや食材にこだわったレディースランチでリピーター拡大を図ったほか、宴会部門においては、企業等の周年事業の獲得や「空知ワインの会」など魅力あるイベント展開で集客を図りました。

『北村温泉ホテル』におきましては、「源泉掛け流し43℃の名湯」を強みとして、スノートレッキングなど季節毎の体験が楽しめる短期滞在型の「新湯治プラン」をPRして集客拡大を図りました。

この結果、北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』を合わせた宿泊者数は前年同期比145人減少の8,749人となりましたが、売上高は前年同期比11,841千円増加の257,785千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前年同期比4,561人減少の35,395人となりましたが、売上高は前年同期比20,735千円増加の825,757千円となりました。

・不動産セグメント

不動産事業における賃貸収入につきましては、前年12月より「KKT住宅展示場」に係る土地賃貸料の改定により増収し、売上高は前年同期比558千円増加の81,707千円となりました。

・土木・建設資材セグメント

土木・建設資材事業におきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務が増加したことに加え、一般土木工事受注が好調に推移したことで、売上高は前年同期比23,766千円増加の178,586千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は、18,811,653千円(前連結会計年度末比29,124千円減少)となりました。

流動資産は、654,857千円(前連結会計年度末比162,002千円減少)となりました。これは主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。

固定資産は、18,156,795千円(前連結会計年度末比132,878千円増加)となりました。これは主に、建物及び構築物、その他(工具、器具及び備品)、投資有価証券等が増加したことによるものであります。

流動負債は、4,386,399千円(前連結会計年度末比50,023千円増加)となりました。これは主に、営業未払金、未払金、未払法人税等が減少したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、4,488,957千円(前連結会計年度末比209,614千円減少)となりました。これは主に、長期借入金、長期預り金等が減少したことによるものであります。

純資産は、9,936,296千円(前連結会計年度末比130,466千円増加)となりました。これは主に、配当金の支払いにより利益剰余金が減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益の計上による利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想及び期末配当予想につきましては、2024年2月14日に公表いたしました数値から変更はありません。なお、業績予想及び配当予想につきましては、現時点において得られた情報に基づき算出したものであり、実際の業績等は今後の経済情勢の変化や事業運営におけるさまざまな状況変化によって、予想の数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	365,561	320,425
受取手形及び売掛金	266,511	171,325
商品	38,273	36,728
原材料及び貯蔵品	56,446	56,523
その他	92,397	72,074
貸倒引当金	△2,330	△2,221
流動資産合計	816,860	654,857
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,968,176	2,018,330
機械装置及び運搬具(純額)	450,625	454,079
土地	14,466,886	14,463,387
その他(純額)	135,141	187,550
有形固定資産合計	17,020,829	17,123,348
無形固定資産		
その他	206,114	204,923
無形固定資産合計	206,114	204,923
投資その他の資産		
投資有価証券	368,103	410,053
繰延税金資産	159,964	150,883
退職給付に係る資産	201,486	204,985
その他	67,418	62,600
投資その他の資産合計	796,972	828,524
固定資産合計	18,023,917	18,156,795
資産合計	18,840,778	18,811,653

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	89,208	41,640
営業未払金	146,222	66,732
短期借入金	3,287,128	3,675,685
未払金	456,574	309,061
未払法人税等	168,154	107,075
その他	189,087	186,204
流動負債合計	4,336,375	4,386,399
固定負債		
長期借入金	2,256,373	2,090,719
長期預り金	2,282,122	2,241,722
退職給付に係る負債	10,476	6,287
その他	149,599	150,228
固定負債合計	4,698,571	4,488,957
負債合計	9,034,947	8,875,356
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	756,529	856,924
自己株式	△3,036	△3,036
株主資本合計	9,701,428	9,801,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,402	134,473
その他の包括利益累計額合計	104,402	134,473
純資産合計	9,805,830	9,936,296
負債純資産合計	18,840,778	18,811,653



(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	2,970,701	2,943,792
売上原価	2,272,685	2,361,204
売上総利益	698,015	582,588
販売費及び一般管理費	305,031	323,789
営業利益	392,984	258,798
営業外収益		
受取利息	5	1
受取配当金	5,147	7,498
受取賃貸料	4,662	3,688
受取保険金	—	6,352
助成金収入	14,592	12,997
雑収入	6,594	4,728
営業外収益合計	31,002	35,266
営業外費用		
支払利息	17,663	19,092
雑損失	4,505	60
営業外費用合計	22,169	19,153
経常利益	401,816	274,911
特別利益		
固定資産売却益	2,965	—
固定資産交換差益	2,227	—
工事負担金等受入額	30,000	—
特別利益合計	35,193	—
特別損失		
固定資産除売却損	3,457	62
減損損失	—	3,499
固定資産圧縮損	2,227	—
投資有価証券評価損	—	1,292
特別損失合計	5,684	4,853
税金等調整前中間純利益	431,325	270,057
法人税、住民税及び事業税	98,011	78,166
法人税等調整額	25,636	△1,540
法人税等合計	123,647	76,625
中間純利益	307,678	193,431
親会社株主に帰属する中間純利益	307,678	193,431

(中間連結包括利益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	307,678	193,431
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54,992	30,071
その他の包括利益合計	54,992	30,071
中間包括利益	362,670	223,502
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	362,670	223,502
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	431,325	270,057
減価償却費	156,533	161,633
減損損失	—	3,499
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△6,857	△3,499
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1,992	△4,188
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△578	△109
受取利息及び受取配当金	△5,153	△7,499
支払利息	17,663	19,092
受取保険金	—	△6,352
助成金収入	△14,592	△12,997
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,292
固定資産除売却損益(△は益)	491	62
固定資産交換差益	△2,227	—
工事負担金等受入額	△30,000	—
固定資産圧縮損	2,227	—
売上債権の増減額(△は増加)	144,326	111,764
棚卸資産の増減額(△は増加)	△4,004	1,467
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	188
仕入債務の増減額(△は減少)	△125,279	△127,057
未払金の増減額(△は減少)	△106,301	△65,629
未払消費税等の増減額(△は減少)	△91,924	△17,743
その他	△22,141	△69,608
小計	341,514	254,369
利息及び配当金の受取額	5,153	7,499
利息の支払額	△18,129	△19,385
保険金の受取額	—	6,352
助成金の受取額	14,592	12,997
収用補償金の受取額	—	11,504
法人税等の支払額	△126,499	△108,045
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>216,631</b>	<b>165,293</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△229,163	△326,751
有形固定資産の売却による収入	4,000	—
無形固定資産の取得による支出	△9,680	△4,007
その他	2,989	30,948
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△231,854</b>	<b>△299,810</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△170,000	460,000
長期借入れによる収入	818,000	360,000
長期借入金の返済による支出	△655,474	△597,097
長期預り金の受入による収入	1,600	4,800
長期預り金の返還による支出	△40,300	△45,200
リース債務の返済による支出	△586	△704
配当金の支払額	△92,252	△92,417
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△139,012</b>	<b>89,380</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△154,236	△45,135
現金及び現金同等物の期首残高	697,260	365,561
現金及び現金同等物の中間期末残高	543,024	320,425

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,408,430	521,279	805,022	81,148	154,820	2,970,701	—	2,970,701
セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,365	5,556	9,849	5,604	6,911	32,286	△32,286	—
計	1,412,796	526,835	814,871	86,752	161,731	3,002,988	△32,286	2,970,701
セグメント利益又は損失(△)	424,167	53,407	19,606	52,764	25,532	575,478	△182,493	392,984

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△180,834千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,342,950	514,789	825,757	81,707	178,586	2,943,792	—	2,943,792
セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,910	5,820	12,412	5,604	31,813	60,560	△60,560	—
計	1,347,861	520,609	838,170	87,311	210,400	3,004,352	△60,560	2,943,792
セグメント利益又は損失(△)	315,128	46,596	△5,890	54,322	39,088	449,244	△190,446	258,798

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△187,276千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。